

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	ライフスタイルの変容が疾病発生リスク及び寿命に与える影響の予測				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	堀 芽久美
	研究分担者	所属・職名	NTT東日本伊豆病院 看護部予防医学科	氏名	小宮山 由紀子
		所属・職名	NTT東日本伊豆病院 看護部予防医学科	氏名	平野 美佳
		所属・職名	NTT東日本伊豆病院 看護部予防医学科	氏名	一宮 禎美
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	堀 芽久美

講演題目	ライフスタイルの変容が疾病発生リスク及び寿命に与える影響の予測
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>新型コロナウイルス感染症流行前後のライフスタイルの変動が、その後の集団における脳血管疾患の死亡数・死亡率をどの程度変動させるかを明らかにすることを目的とした。</p> <p>本研究では、個人を最小単位として扱い、性別・年齢などの属性、喫煙・飲酒・運動などの生活習慣を一個人ずつに設定し、任意の時点から死亡までを時系列にシミュレートするマイクロシミュレーション手法を用いた。今年度は、新型コロナウイルス発生前の疾患別死亡数および死亡率を用いて、ベースラインとなるマイクロシミュレーションモデルを構築した。</p> <p>本研究のマイクロシミュレーションモデルのアウトカムには、脳血管疾患（脳内出血・脳梗塞）死亡数および死亡率を設定した。ベースラインデータには、属性（年齢、性別、BMI）、生活習慣（喫煙状況、飲酒状況、運動レベル）、健康指標（収縮期血圧、拡張期血圧、LDL コレステロール値、HDL コレステロール値、トリグリセライド値）、糖尿病の有無に関する分布を設定した。それぞれの分布の情報は 2015 年の人口動態統計、国民健康・栄養調査から入手した。脳血管疾患死亡率、他死因死亡率については、生涯死亡リスクを用いて算出した。脳血管疾患死亡リスクのパラメータについては、日本人を対象とした先行研究からリスク比を適用した。構築したマイクロシミュレーションモデルの妥当性の検討は、2016 年から 2019 年の脳血管疾患死亡数および死亡率との比較によって行った。</p> <p>妥当性の検討結果として、脳血管疾患死亡数の実測値よりシミュレーション推計値の方が小さくなる傾向がみられた。2015 年から 2019 年にかけて脳血管疾患死亡数は緩やかな減少傾向となっており、2015 年データを用いた本研究の推計値で死亡数が高めにしていることが予想される。今後さらなるモデル精度の向上が求められる。</p> <p>モデル精度の改善の後、新型コロナ感染症流行による生活習慣の変化についてデータの収集を行い、シミュレーションに用いるシナリオを作成する。そのシナリオに基づき、新型コロナ感染症流行による生活習慣の変化によって、今後の脳血管疾患死亡数がどの程度増減するかを推計する予定である。本研究の結果は、新型コロナ感染症の影響評価にとどまらず、保健指導による効果の予測にも適用できる。これにより、集団の死亡率の低下、健康寿命の延伸及び QOL の改善につながる効果的かつ効率的な保健指導プログラムの選択に有用な情報を提供する。</p>